

令和7年度 江戸川区立第五葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p>	<p>(1) 深く考える子（思考力・判断力・表現力豊かで未知の状況にも対応できる子）                  (2) 仲よく助け合う子（実際の社会や生活で、人とのかかわりを大切に子）                  (3) すずんでやりぬく子（学んだことを人生や社会に生かそうとする子）                  (4) 体をじょうぶにする子（心身ともに健康でたくましい子）</p>	<p>目指す学校像                  目指す生徒像                  目指す教師像</p>	<p>○児童一人一人を大切に、豊かな心を育む学校 ○確かな学力の定着を保証する学校 ○教員同士が学び合い、支え合い、高め合う学校 ○家庭、地域と協働して教育活動にあたる学校                  ○心豊かで優しい子 ○身体も頭もきたえる子 ○最後まであきらめずに取り組む子 ○いつも笑顔を決めぬ子                  ○児童一人一人を大切に、使命感をもって教育にあたる教師 ○互いに学び合い、支え合い、高め合う教師 ○児童、保護者、地域から信頼される教師</p>
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果                  国語科において、読解力を向上する校内研究を継続的に進めたことにより、児童が意欲的に文章を理解しようとする意欲が高まる、授業の工夫を全教員で研究し共有することができた。                  体力の向上において、「パワフルチーフスデー」やなわとび月間、ランニング月間など、様々な取組を計画・実施したことで、児童の運動意欲が高まり、体力の向上に繋がり、また活発に外遊びを楽しむ児童が増えた。</p>	<p>課題</p>	<p>授業力を向上させるため、OJT体制を再構築する必要がある。教員の資質・能力の向上をさらに図り、国語科教育の推進や児童の基礎基本の定着への一層の充実を目指す。                  学校のみならず、家庭や本人の資質など多くの要因から不登校傾向のある児童が一定数存在するため、個に応じた対応の検討や充実を図ることが必要である。</p>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・教科担任制の導入 ・電子ドリルや東京ベーシックドリルの活用（家庭学習も含む）	学年末テストにおける到達度80%以上の児童の割合+0.5% 教科担任による授業の実施…週1回 「ミライシード江戸っ子studyweek」の実施…学期1回	70	80	B	・学年末テストは、主要4科目で8割を超えなかった。部会で、各学年の課題を共有したので授業で生かしていく。 ・高学年では教科担任の実施、児童の学習理解を学校全体で目指すことはできている。 ・studyweekも全体に投げかけ、実施できている。	A	東京都や江戸川区の水準に近づけるよう、教職員の方々の努力が見られる。  新しい取り組みが外部にも理解できるよう、成果を報告できるとよい。	B	・習熟度別少人数指導、放課後の外部指導員による補習の成果が、学年末テストの結果等に基礎的な学力の定着として表れてきている。 ・江戸っ子studyweekを中心に学習アプリケーション（ミライシード）を活用することができている。	B	東京都や江戸川区の水準に近づけるよう、具体的な取り組みを期待したい。	・朝のモジュールの時間を活用した「タブレットスタディタイム」を実施し、学習アプリケーション（ミライシード）をさらに活用していく。 ・東京ベーシックなど様々な教材を授業内でも活用していく。
	「学力向上プロジェクト」の取組や補習などによる指導の充実と授業力の向上	・外部指導員と連携した放課後の補習 ・「江戸川区学力向上プロジェクト」のよむYOMUワーク ・江戸川区学力定着度調査の実施（4.5年生）と学習カルテにおける家庭との連携	補習教室（年35回） よむYOMUワーク、年間30回 学習カルテにおける、学習状況の把握と反復練習を1単元3回	70	80	B	・補習を継続することで、BC層の基礎基本の定着を図っていく。YOMUよむワークの実施は滞りなくできている。学習カルテの把握はできているが、復習が十分でないため、担任が点検するなどして、取りこぼしのないように指導していく。	A	パソコンやスマートフォン、SNSなどの普及の中で、年々取り組みが難しくなっているが、学校は地道に活動していると評価する。	B	・放課後支援教室の活用をしているが、支援が必要な児童へ対応するさらなるアプローチの必要感が増している。授業時の復習や学習カルテの苦手分野の復習にも今年度は活用を広げている。	B	パソコンや携帯電話が普及している中で、読書量の低下が進んでいると思うが、学校は地道に活動を続けている。	・算数科で「学習カルテ」を活用し、個々の苦手の克服をメインテーマに自学の質をあげていく。
	読書科の更なる充実と読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科年間計画の実施 ・読書月間の実施 ・保護者ボランティアによる読み語り、図書館整備 ・探究的な学習を取り入れた調べるコンクールへの参加	読書月間…年3回 読み語り…年12回 調べるコンクールへの応募…全学年 探究的な学習についての教員研修…年1回	90	90	A	・図書専門員のアドバイスで選書したり、全員で選書する機会を設けたり、学校全体で読書活動に積極的に取り組んだ。 ・図書室の展示を工夫し、呼びかけを行うことで調べる学習コンクールの参加率を上げることができた。	A	図書館のサテライトの導入で、本が身近になる環境ができていると評価している。	A	・読書科では本の紹介や魅力を伝えたり、書評したりカードを作成し、児童の発達段階に応じた探究的な学習を実施することができた。 ・調べる学習コンクールの応募数を上げていくために、今年度は葛西図書館から派遣いただいた司書さんより調べる授業を受けたり、夏休み前に担任が事前指導を行って、コンクール参加を促した。継続的に指導に取組、普及させていく。	A	図書館のサテライトの導入で、本が身近になる環境ができている。学校応援団としても図書館の環境整備に尽力させていただいた。	・継続して、図書の選定で全員で選書する時間を設ける。 ・調べるコンクールへの参加を全員で取り組んだり、出前授業をしてもらい理解に努める。
体力の向上	「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・運動遊び「パワフルチーフスデー」の実施	実施年20回	75	85	B	暑さが厳しいときは時間を短縮して実施するなどし、できるだけ回数確保することができた。	B	猛暑で子供たちの体力づくりにも影響が出ることを心配している。	B	・雨や熱中症警戒アラートの影響で1学期のパワフルチーフスデーの実施回数が少なくなったが、2・3学期は予定通り実施できた。	A	ゲームやYouTubeに夢中な子供たちの外遊びの時間が減ったりしていることから、体力的に心配に思っている。	猛暑対策として、それぞれの体育的行事の時期を見極め、効率的に体力向上ができるようにする。
	主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・なわとびチャレンジやランニング月間の実施	なわとび月間…学期ごとに期間を定め、年間3回 ランニング月間…3学期に実施	70	80	B	前年度の反省を生かし、なわとび月間の取り組み方を変えた。前年度よりも意欲向上を図ることができた。	A	体力向上の取り組みを継続して意欲的に行って欲しい。	B	・縄跳び月間では、学級ごとに目標を設定して意欲的に取り組んでいたが、今年度は実施期間が短かったので改善していく。	A	朝の時間や、休み時間を活用しているのがよい。継続的な取組を求める。	縄跳びを継続して次年度も取り組む。空いた時間をうまく活用したり、運動会に取り入れたい。
	体力テストにおける東京アルファの円滑な導入・活用と運動技術の向上	・東京アルファを使用した体力テストの実施と、授業における手本動画の活用	体力テスト・・・タブレットを使用した動画での事前指導や数値把握	85	90	B	今年度も教員の実技研修を行ったことで、児童に適切に指導することができた。 東京アルファの活用については、ICT支援員の援助を積極的に受けられるようにしたい。	A	同上	A	・全学級、東京アルファの活用をすることができた。		タブレットをうまく活用していることはよい取り組みである。	タブレットを活用して、事前指導にも力を入れる。
共生社会の教育の推進	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援研修会の開催 ・特別支援夕会での情報交換（月1回） ・教室環境の整備、教材・教具の工夫	特別支援研修会…年3回 特別支援夕会…年10回	70	70	B	・夏季休業中に講師を招いての特別支援研修会を1度行った。特別支援夕会でも、啓発に関わるような情報の伝達を3度行った。	A		B	・定期的に特別支援夕会が開かれることで、支援が必要な児童の状況について学校全体で共通理解し個別対応することができた。	A		個別最適な学び、および支援に向けて、学校全体が一つとなって取り組む。
	エンカレッジルームの活用と校内の居場所作り	・エンカレッジルームの活用とエンカレッジサポーターの採用、育成	エンカレッジサポーターは常駐する 全教員で1時間ずつ受け持つ	90	100	A	・エンカレッジルームに大人が必ず居て、必要に応じてサポートをする体制が出来ている。	A	それぞれの個性に合わせた、個別最適な学びの実現や指導について努力されている。	A	・エンカレッジルームを利用する児童の対応は当番制で取り組むことができている。	A	学校を応援するサポーターを広く導入していることを聞き、良い取り組みと認めている。協力できることがあれば協力したい。	エンカレッジサポーターの更なる充実と、質の向上に取り組み、個別最適な学びを実現する。
	副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・都立鹿本学園との副籍交流	副籍交流…間接交流・月1回、直接交流…各行事	70	80	B	・要望に応じ、交流内容を考え実施している。直接交流を実現させたい。	B		B	・間接交流だけでなく直接交流を図っていく。	A		感染予防などをしながら、できる限り直接交流ができるよう積極的に活動する。

不登校・いじめ対応の充実	不登校対策の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導連絡協議会での情報交換</li> <li>不登校対策委員会の開催</li> </ul>	生活指導連絡協議会年10回 校内生活指導夕会年40回 不登校対策委員会年5回	90	100	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導上の問題についての情報を共有し対応している。</li> <li>不登校対策委員会では、教職員の共通理解のもと対応している。</li> </ul>	A		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校対策委員会やいじめ対策委員会を適切なタイミングで開催するなど、教職員の共通理解のもと、生活指導にあたる事ができている。</li> </ul>	A	不登校や第五葛西小学校だけでなく、全国的な問題で、数も増えている。様々な取り組みで対処されていると考える。	引き続き、「報告・連絡・相談」を徹底し、校内の共通理解を図ったうえで、学校全体として取り組んでいきたい。
	教育相談の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止に向けた取組</li> <li>ふれあいアンケートの実施</li> </ul>	いじめ防止週間…年3回 ふれあいアンケート3回	90	100	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止週間は計画通りに実施でき、防止に務めている。</li> <li>アンケートの実施、共有を図り、対応に当たっている。</li> </ul>	A		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとの生活アンケートの結果をもとに、児童から話を聞く機会を確保し、生活指導に当たることができた。</li> </ul>	A		
	L-GATEの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>L-GATEを利用した児童理解</li> </ul>	LGATE実施は毎日 家庭との連携は年2回の面談で実施	70	80	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>L-GATEを毎日実施することができている。結果をどのように活用していくかについては、さらに検討が必要である。</li> </ul>	A	結果について、支障のない範囲で公開してもらえると分かりやすい。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>L-GATEを実施することはできていたが、実施するだけでなく内容をどう生かしていくか今後検討していく。</li> </ul>	A	タブレットをうまく活用していることはよい取り組みである。	L-GATEの活用に向けて、質問項目などを検討し、教育活動に生かせるようにする。
学校（園）の開かれた地域社会の実現	教育活動の取組の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりや学年だより、年間行事予定や各種年間計画のホームページ掲載（随時）</li> <li>情報発信アプリtetoruの活用（随時）</li> <li>学校公開・土曜授業の実施</li> </ul>	ホームページでの情報発信（随時） 情報発信アプリtetoruの活用（随時） 学校公開・土曜授業の実施（年3回）	90	90	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページやアプリでの情報発信が充実している。</li> <li>時間制限や人数制限がなく、学校公開を行うことができ、幅広く家庭へ公開することができた。</li> <li>巡回指導教室についても公開することができた。</li> </ul>	A	学校公開について、制限なく、地域にも告知をし、子供たちの学びの姿を見ることができた。葛西二中とのふれあいコンサートなど、継続して取り組んでほしい。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページやアプリでの情報発信が充実している。</li> <li>時間制限や人数制限がなく、学校公開を行うことができ、幅広く家庭へ公開することができた。</li> </ul>	A	学校公開に行かせてもらい、個性豊かな子供たちの演奏会での活動や、中学生との交流、また才能あふれる図画工作の作品を鑑賞し、とても良かった。	情報発信アプリを効果的に使って、段階的にペーパーレス化を図ってきたい。引き続き、学校公開は状況に応じながら可能な限り幅広く行っていく。
	学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価項目を整理し、学校評価の効率化、適正化を図る。</li> </ul>	重点目標、取組、指標等の周知…5月まで 中間評価の周知…9月まで 外部アンケート等の実施…1月まで 最終評価の公表…3月	90	90	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの方法はICTを使って、保護者がより回答しやすく、教職員も集計しやすいものへと変えることができた。</li> <li>情報の公開について検討が必要である。</li> </ul>	A	保護者の意見をアンケートを使って集め、今後の教育活動に生かされるよう、努力されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの方法はICTを使って、保護者がより回答しやすく、教職員も集計しやすいものを継続することができた。</li> </ul>	A	保護者の意見をアンケートを使って集め、今後の教育活動に生かされるよう、努力されている。	集計結果や結果に基づく改善策を地域や保護者に周知する機会や方法について、改善していく。
教育の特色ある展開	小中連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携プログラム」による連携の充実</li> </ul>	全教員が連携プログラムを理解し実施 部活動体験…年1回 授業公開…年1回	95	95	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあいコンサートでの中学生との交流や部活動体験の実施など取り組むことができている。</li> <li>児童に関する申し送りなど滞りなくできている。</li> <li>打ち合わせで教務主幹による意思疎通が図れた。</li> </ul>	A	子供たちのために、積極的に連携して取り組んでほしい。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあいコンサートでの中学生との交流や部活動体験の実施など取り組むことができている。</li> <li>児童に関する申し送りなど滞りなくできている。</li> <li>打ち合わせで教務主幹による意思疎通が図れた。</li> </ul>	A	子供たちのために、積極的に連携して取り組んでほしい。	働き方改革で、精選するべき内容もあるが、児童に関する申し送りなどは丁寧に行い、小中の連携を確実なものにしていく。
	「学校における働き方改革プラン」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施</li> </ul>	定時退勤日…年12回	95	100	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日を設定し、実施することができている。</li> <li>残業や休日出勤をする職員が以前より減ってきている。</li> <li>昨年度より会議数が減り、教員が児童理解や授業準備に充てられる時間が増えた。</li> </ul>	A	働き方改革は一般企業と違い、難しい。教員を増やすことも必要なのではないかと思う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日を設定し、実施することができている。</li> <li>残業や休日出勤をする職員が以前より減ってきている。</li> </ul>	A	働き方改革は一般企業と違い、難しい。教員を増やすことも必要なのではないかと思う。IT化を進め、先生方から健全であってほしい。	働き方改革として、継続して校内、職員室の整理整頓を行った。また教育課程の精選も行っているため、さらに稼働時間の無駄がないように管理職と主幹教諭で進行管理を行う。